令和２年度第１回茅ヶ崎市地域福祉推進委員会（書面会議）会議録

議題	議題１　新プランの基本目標の設定について～市民アンケート調査・意見交換会・推進委員会からの検討～ 議題２　第４期茅ヶ崎市地域福祉計画・第６次茅ヶ崎市地域福祉活動計画・第１期茅ヶ崎市成年後見制度利用促進基本計画素案について 議題３　その他（新プランの愛称について）
議決日	令和２年７月２７日（月）
出席者氏名	委員長　豊田宗裕 副委員長　島村俊夫 委　員　米重ヨウ子 委　員　永田啓一朗 委　員　石井忠彦 委　員　服部直也 委　員　小野田潤 委　員　杉山茂紀 委　員　倉金榮 委　員　鈴木美佐子 委　員　松戸康彰 委　員　田島淳一郎 委　員　坂本弘子 委　員　片田朗子 委　員　尾上美子 （欠席委員） 委　員　細谷誠　※事務局 （関係者） 茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員会
会議資料	資料1　新プランの基本目標の設定について～市民アンケート調査・意見交換会・推進委員会からの検討～ 資料2　地域福祉推進のためのアンケート調査報告書 資料3　第4期茅ヶ崎市地域福祉計画・第6次茅ヶ崎市地域福祉活動計画・第1期茅ヶ崎市成年後見制度利用促進基本計画素案 資料4　令和元年度第4回（令和2年3月）の委員会（書面による意見聴取）での御意見 資料5　御意見シート

会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	―
傍聴者数	０人

※議事録について、推進委員会規則第６条により、地域福祉活動計画推進委員会及び茅ヶ崎市社会福祉協議会を関係者として位置づけ、活動計画推進委員会委員の発言については、委員個人の氏名ではなく一括して「茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員」による発言として表記します。

（会議の概要）

・議題１　新プランの基本目標の設定については、資料１のとおりとし、各委員の意見を踏まえ、次回委員会までに計画素案を作成することが承認された。
・議題２　計画素案については、各委員の意見を踏まえ、内容や書きぶりを検討し、次回委員会までに作成することが承認された。
・議題３　新プランの愛称については、今後の委員会で検討することとなった。

各議題に対する意見

【議題１】

新プランの基本目標の設定について～市民アンケート調査・意見交換会・推進委員会からの検討～

意見内容	委員名
■基本目標について	
基本目標数が現計画 5 から次期計画 3 となる経緯（意図）等があれば次期計画書で多少、触れてよいかもしれない。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
大枠で基本目標を、５つから３つにまとめる事については賛成です。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
アンケート調査や意見交換会、推進委員会での検討結果から得られた課題。それに対する目標は、正に①つながる②活動する③支え合うと言えると感じました。	片田委員
良く整理され見やすく、読みやすく構成されていると思います。基本目標、課題等が解りやすく良いと感じました。	倉金委員
資料１では市民アンケートや意見交換会等での現状把握・課題整理を経て、基本目標や取組みの方向性の設定に繋げたという一連のプロセスが記されていて分かりやすい。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
基本目標１の「つながる」において「相互（多様性）の理解・啓発」とありますが、「相互（多様性)」についての具体的説明がなく明確でないので、「多様性」とは何を示すのか詳しい説明が必要かと思います。例えば、高齢、障がい、子どもに限らず、目に見える違い、見えない違い、心理的傾向の違い、宗教・信仰の違いなどどのような多様性があるか具体的に示すこと、また、性的マイノリティーの方やLGBTの方、外国人差別等、地域では表面化しにくい、また潜在化しやすい課題を意識的に取り上げることも地域福祉計画の役割かと思います。	小野田委員

重点的な取り組みが基本目標３の「相談支援体制・連携の充実」と「成年後見制度の普及・利用促進」のみですが、基本目標１および２についての重点的な取り組みがなくてもよいでしょうか。３期プランでは他の基本目標にも入れていたかと思います。どちらかと言うと行政主体の取り組みになるため、前回のミニデイサロンの開催推進など住民主体で取り組めるものも入れたほうが良いかと思います。 また、地域福祉の担い手不足が継続するなかで、主体である住民とともに地域に存在する、民間事業者、学校、商店やNPO法人など多様な団体との連携や協力が不可欠であると思います。これらの存在は地域福祉においては住民と並列ではないかと思いますので、連携や協力ということだけではなく、多様な団体が地域の中で主体となるような働きかけができるようにアプローチできると良いと思います。例えば災害時の取り組みなどは地域の中にある事業者としても相互に協力が必要であり、基本目標３「支え合う」において具体的にイメージできるように入れても良いかと思いました。	小野田委員

■ボランティアについて	
ボランティアの定義をしっかりとしておくことが必要なのではないか。ボランティアは、無償である。有償を認めていくと低賃金雇用と同様になり、弊害が生じると考える。災害時のボランティアを考えてください。なのに通常時に有償やら優遇を考えるのはボランティア活動とは言えないと思います。そのうえでのボランティア活動促進を計画すべきである。	島村副委員長
ボランティアなどの地域活動を始めやすくするために必要なことについての意見、自由回答に興味深いものがあった。「元気な時にボランティアをして、それがポイントになり自分が高齢になった支援が必要となったときにそのポイントを使って支援が受けられる」というアイデア。とかくボランティアは無償というのが通常の概念であるが、現代においてはこういった発想転換も必要かと思う。	鈴木委員
ボランティアが無償を指す言葉から、有償ボランティアの考え方をしっかり取り入れたほうが良いのではないでしょうか。「ボランティア」、「福祉」という言葉のつながりが人をひきつけない一つと思っています。 「人生100年」の中でお小遣いが欲しい。 2,000万円の貯金は無理です。	石井委員
地域のボランティア活動に参加意向がある人が約半数もいることは、大変興味深かった。参加する条件としてあげられている、「活動場所や活動時間が選択でき」「不定期でも参加できる」仕組みを作り上げたい。また、気軽に参加しやすい、頼みやすさにつながる仕組みとして、ポイント制も有用だと思います。大がかりなシステムが難しければ、シールを利用した方法等（ボランティアを頼む人にシールを購入してもらう。ボランティアを行った人は、シールをもらえる。シールを集めると、市内のお店で利用できる金券等になる）も低コストで始められると思います。	尾上委員
社会人になってもボランティア活動が継続出来るよう、特別休暇が取れる仕組みが根付いていけば、少しでも担い手不足解消の一助になるのではないかと思います。 （企業の理解）	片田委員

地区ごとでなく、各地区の強みを連携することで互いに生かしながら交流を図ることも必要ではないかと思いました。多少メリットのあるボランティアも考えられたらいいと思います。	永田委員
ボランティアがいてくれると助かると思った簡単な例として ・団地の高層階に住む高齢者は、買い物をした荷物やシルバーカーを、高層階の自宅に運ぶのにとても苦労しています。そのため、まとめて買い物もできない状況です。こういった小さなことでも助けてくれると非常に助かります。曜日と時間を決めて、この日時と場所に買い物した荷物を自宅まで運んでほしい人がいる、と学校等で周知し、小中高校生が気軽に手伝ってくれる、そんな地域ができたらよいな、と思います。 ・地域内で気軽に顔を出せる場所として、「近所のお店」が多かったので、このことを活用できないかと思いました。お店に依頼し、地域の情報提供のスペースを作っていただいたり、困りごと受付箱、ボランティア募集の告知、ボランティアします！という告知スペース等 スーパーのイートインスペースでは、地域の人が交流している姿がよく見られます。	尾上委員
「不定期な参加」、「場所・時間の選択」「身近な地域で活動」ということが可能であればボランティアの参加を考えられる。ボランティアの窓口の周知、活動内容、場所、時間が明確化され、参加できることがわかり、多くの人が登録することで活性化させる。	永田委員
市民アンケート調査結果を大変興味深く拝見しました。 ボランティア活動に関わる者として、特に 2. 基本目標 2「活動する」についての項目が参考になりました。 私達は市社協と共催して毎年ボランティア大学を開催し、活動に参加してくださる方を募集しています。 しかし、年々参加人員も少なくなり高齢化も進んでいます。 その傾向がアンケート結果に如実に表れています。最近の社会情勢を鑑みてやむを得ないと思いますが。 ただこの中で、男女とも年齢に関係なく半数近くあるいは半数以上の人が、今後「ボランティア活動」に参加したい意向がある、とのことでした。 そこで、次回、参加募集を行う際は、これらの結果を踏まえ ＊年代・男女、どこに焦点を合わせ ＊どういうマスメディアを使って ＊どういう形で広報するか 工夫を重ね、より効率的に実施していけたらと思いました。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
アンケートの結果を見せていただいて、地域福祉の推進の一役を担うものとして、貴重かつ再認識が必要なご意見として受け止めさせていただきました。「地域共生社会」の実現には“住民”が能動的に関与することが不可欠であると考えていますが、茅ヶ崎市の住民は自治意識がむしろ高く、福祉増進への期待感が高いように感じます。ただ、ニーズが多様化しすぎていて、集約が難しいこと、それ故、ニーズ	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員

をマッチングしていく役割が分散してしまうこと（※ご意見の中あった“どこに相談したらわからない”とか“相談窓口が多すぎる”という意見はその通りかも知れません）でせっかく行動を起こそうとしている方がスムーズに動けない環境になっている可能性もあるのではないかと考えました。数値目標を設定し、目に見える形で評価を実施して行くことは大切ですが、数値の改善の視点のみならず、それぞれが意味するもの（果たすべき機能）を明確に（整理）していくことで、もっとシンプルに訴え掛ける方が結果として住民に届き易くなるのではないでしょうか？	
隣近所の人と付き合いたい、ボランティアに参加してみたい気持ちを持っている人が多いことがわかりました。しかし、知る手段やどこに行ったらいいのかわからないことが大きい要因だと思います。ボランティアでは、若い世代では、子育て、高齢者は身体的なことでしたくでもできない現実があることがわかりました。	永田委員
アンケート報告から、繋がり作りや地域活動に想いのある人は多くいながらも、一歩踏み出せない方等が多くいる事を再認識できた。既存の場の活用も継続して必要性を感じる一方で、個人が自発的に「これをやりたい」が叶えられるような、仕組み作りがあると良いなと感じました。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
「活動する」については、大人になってから急にボランティア活動（地域活動など）をするにはハードルが高いと思うので、子どもの時から「ボランティア活動をする」という風土創りが必要ではないかと感じています。（地域活動等ボランティアをする機会）	片田委員
ボランティア活動を通じて得られる経験やコミュニティは、視野を広げたり、幅広い人脈を作ったり、奉仕の精神を育てるといった効果も期待できるため、多様性の理解にもつながると思っています。（多様性の理解と人材育成）	片田委員
■福祉教育・福祉への関心について	
基本目標の設定は良いと思いますが、気になるところは、平成２９年度の調査より約３ポイント増加しているとは言え、回収率が約半数に満たないことです。 調査期間が台風１９号の後でもあり、避難をしたり、周りに気を配ったりして、地域福祉に関心を示す市民が少し増加していると思われますが、ほとんどの市民が福祉に関心が無いのではないでしょうか。 特に子どものうちから（小学生から大学生）福祉に関心を持たせる教育を半強制的に行っていかないと、困ったときだけ市民税払っているのに市は何もやってくれないと、文句を言う人間になると思います。 「つながる・活動する・支え合う」ための仕組みを市が作るのは勿論ですが、それを知らせて、使わせる、参加させるための仕組み作りと、その見える化も合わせて行うことが重要と思います。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
地域福祉活動に関心を持って頂けるように、なぜ、つながりの再構築が必要なのか？住民と行政の協働による支え合いが求められているのか？各世代向けの福祉教育を通じて丁寧に説明を続けることが大切ではないかと思っています。（福祉教育）	片田委員
ご意見の中に、福祉施設との連携を期待する声もありました。以前から言っているように福祉（介護）施設がもつ多様な資源が施設内の利用者に止まらず、還元でき	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員

ることが理想です。社会福祉法人の貢献活動を積極的に進める流れになってはきていると思います。これは住民と施設（事業者）間の関係に限った話ではありませんが、日常時から“顔の見える関係”が必要だと思います。こうしたことについては、事業者の立場としても推進していかなければならないことだと日頃より感じています。	
日頃の悩みや不安の中で嫌がらせ、いじめ、差別、暴言、虐待の問題で特に福祉活動に従事する仲間へのいやがらせ、いじめなどの問題が発生しています。仲間を思いやる心情が大切かと思います。 特に福祉活動は上下関係を鮮明する関係は厳に慎む必要があるかと思います。折り合うことが神髄であると考えます。 我々に課せられた課題として、風通しの良い組織。そして担い手の育成が大切かと思います。今後とも微力ながら、活動を継続していきます。	杉山委員

■次期取り組み課題について	
気軽に顔を出せる中で自治会館が意外に使われ（自治会の仕事が順番に回ってくるからか)、逆に 40 歳～64 歳の男性の公民館の使用がゼロ、地区ボラセンへの顔出しがゼロになっていることに目的が明確になっているところの顔出しは難しいとの印象を持ちました。今後とも居場所づくりはよほど考えないと言葉だけになりそうです。	石井委員
ＳＮＳの活用の割合が増え、今後ますます増大していくことを鑑みると、発進の仕方や、ＳＮＳの活かし方が重点課題のようにかんじられました。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
■グラフ・表について	
資料１　P5.「現在の付き合いの程度別、今後の付き合い方」の表が分かりにくいように思います。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
資料１．男（上）女（下）での分け方の表になっておりますが、私は、年齢ごとの男女の比較が解る方が良いと思います。同じ年代の男性と女性の考え方を知る事ができるので。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
■その他	
里山の方に住んでいる者なのでご近所さんが少ないのですが若い方は朝から働きに行き話をする機会もなく、野菜の直売所で地元の方とおしゃべりの仲間に入れていただいたり、地域のお役をいただいた時に色々の役の参加で楽しい思い出があったりと、コミセン参加にさそわれたりするが仕事を持っているのでごいっしょにという事になれない事などアンケート調査・意見交換等と考えは皆だいたい同じだと思います。とにかく道を歩くときは人とアイサツ・言葉がけを心がけています。	米重委員
意見は出つくしたと思う。前回のアンケートと余り替わった様子が見られないと思う。個々の意識の向上がないと、こちら側は無念に思ってしまう。自から考え行動する事が大切です。	坂本委員
市民アンケート（調査報告）は貴重なご意見として大変参考になりました。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
アンケートをされた方で、このような事業計画があることを知ったとの声は、アン	茅ヶ崎市地域福

ケートでの広報活動の拡がりが見えました。	祉活動計画推進委員
アンケートの回収率が驚くほどよかった。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
まず、アンケートの回答からみて、20～30 代の若い世代の回答が少ないのが気になりました。あまり興味を持たれてないのかなと感じました。	永田委員

【議題２】

第４期茅ヶ崎市地域福祉計画・第６次茅ヶ崎市地域福祉活動計画・第１期成年後見制度利用促進基本計画素案について

意見内容	委員名
■計画全体の説明について	
見せ方については、第３期プランの「計画の体系」のようにわかりやすい図があると良いと思います。	小野田委員
＜計画の体系＞を、第２部の頭に差し込んでも良いのでは、という印象がありました。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
表紙の次の頁「地域福祉とは」の中の自助、互助～について、それぞれが独立したイメージで書かれているが、それらは重なり合い孤立等の問題に対応するものであるためイメージ図もそれに合わせたものにしたい。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
p.2「はじめに」「1 計画策定の趣旨」において社会福祉法の改正、SDGs についても触れてはどうか。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
p.17 「２社会的な背景」に関し、(今後、追記されると思うが) 平成 27 年 4 月施行の生活困窮者自立支援法の記載。また、年表形式としたほうが見やすいと思う。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
計画書の前段（地域福祉計画・地域福祉活動計画）としては計画指標や行政・社協・地域住民他の役割分担等も記載されている現計画書をベースとして良いと思う。今回から第 1 期成年後見制度利用促進基本計画を加えるのであれば、その経緯(事情)についても丁寧な説明があると良い。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
■基本目標３について	
基本目標３「支え合う」における主な取り組みとして、「相談支援体制・連携の充実」、「総合相談体制の更なる充実」の記載があるが、次期計画書では言葉の意味（総合相談の意味合い等）や取り組み内容等が誰にでも分かるように表現を工夫したい。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
基本目標 3「支え合う」における主な取り組み「相談支援体制・連携の充実」が重点事業に位置付けられており、地域共生社会の実現に向けた制度・分野ごとの縦割り解消等を目指す取り組みの一つとして計画の柱となる部分と思われるが、次期計画書では重点事業をより前面に出し、重点に据えた経緯等にも触れたい。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
計画の体系（案）　基本目標３　の三段目　専門職の支援（連携した対応・学習支援）とありますが、専門職の学習を（市が？）支援という表現に違和感があります。知識・経験の共有の場作りというようなイメージでしょうか？	尾上委員
市民アンケートの中で、「日頃の悩みや不安」について、健康の問題、経済的な問題、災害対策にかかわる問題への不安が高い傾向にあるとのことなので、「基本目標３　支え合う」の項目の中に、災害に備えた地域・組織づくり的な内容を記載してはどうか？と思いました。 大規模災害の発生懸念は年々高まっています。災害直後の対応は近隣同士の助け合いが基本となると思うので、日頃からの顔の見える関係づくりや支え合える関係づくりを進めておく必要があります。また地域間や行政との情報共有、連携の仕組みなど協働することの重要性もあると思うので、取り組み内容として盛り込んではど	片田委員

うかと思いました。	
コーディネーター配置事業は、是非共の必要性はないと思いますので、次期計画からは削除すべきと考えます。	島村委員
■成年後見制度について	
「成年後見制度」は「権利擁護意識」の今以上の機運の高まりや生活弱者の増加により、今まで以上に重要なシステムに育てていかなければいけないものと認識しています。しかしながら、制度の名称や概要が難しく捉えられている面があり、なかなか普及していない印象があります。また「成年後見制度」を支える人側の「代弁者意識」も根底にしっかりと根付いているとも言えないように感じます。制度上の有資格者や市民後見人の育成もされていますが、大切なのは正常に権利擁護を果たす（主張）することができない方の“代弁機能”をしっかりと果たしていくこと（そのための制度）と思いますので、そのことがしっかり対象者や代弁者（後見人）に伝わるような計画内容になっていくことを期待します。その意味では、“つながる”“ささえる”の地域福祉計画の核となる部分と関連が深いものと思いますので、文字通り計画策定により利用が促進されるように、	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
成年後見制度については、利用促進のためにはその費用の点の説明が絶対必要です。必ず加えてください。	島村委員
成年後見制度と福祉との関係がよくわかりません。この制度は本人の意思を最後まで伝える、支える人はこの制度を利用して最後まで見送れる制度と理解していますが。「つながる」の一部ではないでしょうか。	石井委員
私自身、成年後見制度について話をする方がまわりにいないのが現状です。	米重委員
■盛り込むべき事項や書き方について	
・課題については、抽出できているのではないかと思います。 第４期福祉計画では、具体的に実現できたこと、実際に取り組んだこと（第１期～第３期）を具体例として記載ができると良いと思います。 どのように取り組んでいけば良いか？わからない地域も多くあると思います。計画書の実際の事例を参考に取り組んでいただけるかもしれません。 ・アンケートの結果、例えば「担い手不足」、担い手不足なのは共通課題として理解できますが、具体的にどのような理由により、担い手不足となっているのかわからないと第４期でも解決はしてこないのではないかと考えます。	松戸委員
高齢化や少子化は、対策を講じようがないので、その中でどのように考えて行くのか？考えて行くような記載があると良いと思います。 定年が、６５歳、７０歳まで延長されるとの政策が、報道から推測すると進んでいると思います。５年後、１０年後には、ボランティア的な支援は、難しくなるのではないかと懸念しています。 一方では、コロナ禍により「リモートワーク」などの働き方が更に進んでいくのではないかと思います。都市圏まで通勤していた方が、在宅で仕事をするスタイルは、間違いなく増えてくると思います。 例えば、東京に茅ヶ崎から通勤していた方は、朝約 1.5 時間、夕方約 1.5 時間の通勤時間を「余暇」として使うことができるようになります。その時間を家族や趣味	松戸委員

に使う方もいらっしゃるかとは思いますが、福祉（地域）に力を貸していただける方もいるのではないかと考えます。 そのような、未来像がイメージできると良いかと思います。	
全体の構成は、分かり易く非常に良いと思います。しかし、１項の意見にも書きましたが、基本目標の中に、それを実行させる手段（学生のうちから参加させる仕組み作りや、社会人を参加させる仕組み作りと、参加した人への特典等の見える化）を入れていくことが必要と思います	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
18P　SDGs（持続可能な開発目標）が入いる事は画期的と思う。 知名度は少ないと思うが、教育プログラムの中に取り入れて考えられたらと思います。（ガールスカウトの指導者として） とても良くまとまられていると思います。何年もたずさわっているとマンネリ化してしまい良い意見が出せません。	坂本委員
第２部の第１章基本目標と、第２章計画の展開を分けて記載する方が良いのかは、皆さんの意見をうかがいたいところ。基本目標に「方向性」の記載があるので、続けて「展開」まで記載しても良いのでは？との印象がありました。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
「資料３」前半でまとめられている「地域福祉（活動）計画」については、過去の議論や様々な意見を集約してきた経緯もあり、それらを尊重しながら現在の状況に照らしてふさわしいものを策定していくことが必要と思いますので、その内容が概ね網羅される形になっていると感じますので、細部を加筆・修正していくことで良いのではないかと思います。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
「つながる」・「活動する」・「支え合う」という目標はとても重要だと思います。 そこで、誰とつながり、支え合い、どのような場所でどのような活動内容なのかということがはっきりしないといけないと思います。 市民と言っても、子ども、子育て世代、高齢者、障害者、１人世帯などいろんな人たちをどうつなげて支え合うのかをしっかり考えていく必要があると思います。又その間の橋渡し的な役割でもある行政が、関係機関、企業、市民団体、医療などにより、場所や活動を提供することも必要ではないかと思います。今後、高齢化が進む中、高齢者に比重を置きながら、あらゆる状況にも対応しうる地域福祉を作っていかないといけない。 成年後見人についても、人とのつながりがないと、身近に必要な人が居るかどうかもわからない。つながり、身近にいることがわかれば支え合うことにもつながっていく。 つながるためにも、行ってみようと思える場所を多く作ることが必要だと思います。それには公的な場所だけでなく、身近にある飲食店、空き家など利用する。 判断能力が低下した時に相談したい相手では、家族、友人、知人、近所の人というのが多くなっていることを見ると、身近な人とどのようにつながりを持つかが重要になると思います。	永田委員
地区ボランティアセンターや私たち市社協のボランティアグループも、担い手不足、高齢化です。また、民生委員児童委員もなり手がいないそうです。 であるならば、各団体相互に連携し合い、支援出来るところは互いに支え合って活	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員

動していければより良くなるのでは。 私たちは市社協と絶えずコミュニケーションをとり活動しています。 また、障がい者通所施設・高齢者介護施設などからのボランティア要望にも市社協を介して活動しています。 このようにして、地区ボラセンや民生児童委員などとも交流・連携出来れば、それが「つながる」ことになるのでは。	
新型コロナウィルス流行、そして収束の目途がたっていない現在、新しい社会生活の様式が求められています。今までの様な直接人と人との触れ合いの中でのつながり・支え合いが出来にくくなっている今、又、これからもどのくらい、続くか分からないでいます。どこか、巻末にでもこの問題について触れておかなければならないのでは？ それとも、この問題各年度の事業計画で取りあげるべき事でしょうか？	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
コロナ感染拡大により地域福祉・ボランテアもなかなか難しくなってきております。 ボランテアに関わってくださる方々が高齢の方が多く、持病を持っている方もおり、以前と同じ様には難しいです。 これからのボランテアの有り方も変わらざるを得ないと思います。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
■デザイン等について	
活動紹介として、写真や活動されている方の生の声（事例）が盛り込めると良いのでは。市民の方々が、より身近なものとして感じられるような。 活動につながった経緯や、活動してみての感想や、呼びかけなど（？）。率直に「みなさんの協力が必要です」など。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
４コマ漫画にして視覚化することはとても良いアイデアだと思いました。それとともに、何か関連事項の紹介や他の取り組みなどインターネットの Web アドレスや、QR コードで画像や動画がみられるようにするのも面白いと思いました。よければ参考に以下の動画をご覧ください。 例えば、お互いの理解については、デンマークのダイバーシティーに関する動画（http://www.youtube.com/watch?v=xb_eByJLPRE） 成年後見制度の紹介では、裁判所が出している簡単な制度説明と手続についての動画（https://www.courts.go.jp/links/video/seinen_kouken_video/index.html）	小野田委員
第２部　これからみんなで取り組むことで、漫画 or イラストが入ると良い。視覚で身近に感じとることができる表現画風を期待しています。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
分かりやすく、伝わりやすい（理解されやすい）内容でまとめられると良いと思います。全体としてイラストや漫画などの活用も検討されており、柔らかいイメージには好感が持てました。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
グラフや表は、カラー印刷の方が見やすいと思います。	服部委員
■その他	
基本目標、行動計画が明確で良いと思います。	倉金委員
計画に賛成です。	鈴木委員
勉強して知ることが大切で、手続など内容を理解して、必要な日が、この制度を積	杉山委員

極的に活用できるよう PR して利用促進したいと思っています。引き続き利用促進のための講習を開催して下さい。	
市民代表で手を挙げたものの福祉情報についても無知な事が多く色々な場面で会う方々も知らないで生活している方も多いのが現状です。市でこのような計画、活動がなされている事も知られていないと思います。 若い頃単にボランティア＝お年寄りに寄り添う事を思いながら暇を見つけて行っていた事を思い出します。 地域の相談窓口、活動拠点の認知、情報発信、地域での助け合い・支え合いをまず近所の方とのおしゃべりタイムに話題にしていこうと思います。	米重委員
市と社協は今後一つの計画で進んでいくと解釈していますが、その時のまとめ役はどちらになりますか。	石井委員
福祉を今後やってみたいと思う市民の相談窓口はどちらでしょうか	石井委員

【議題３】

その他（新プランの愛称について）

意見内容	委員名
■現行プランの愛称継続	
そのままで良いと思います。	坂本委員
「みんながつながるちがさきの地域福祉プラン」続行がよろしいと思います	鈴木委員
現行プランの愛称を引き続き使用。	服部委員
現在の愛称で良いと思います。	尾上委員
愛称は今までので良いと思います。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
現在の愛称でよいと思う。分かりやすく、やさしいイメージです。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
これまでの愛称が定着しているのであれば継続して使用して良いと思う。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
現在の愛称での継続を希望。定着していることをふまえるのであれば、なおさら根付かせた方がよいのではという考えです。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
名称についてあまり長くならないようなものが良いとは思いますが、かと言って内容が不明瞭になることも避けなければいけないので、現行名称をベースに検討する方向性で良いのではないかと考えます。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
第３期プランの「みんながつながる　ちがさきの地域福祉プラン」を作成する際にいろいろ検討したかと思いますので、定着しているようでしたらこのまま継続で良いと思います。	小野田委員
■他案	
地域福祉の目指すところは、「住民同士がつながり、支え合う体制を実現すること」だと思いますので、現行の「みんながつながる～プラン」でも良いと思いますし、「みんながつながる・ささえる～プラン」でもいいかと思います。	片田委員
「住み続けていたいまちのために」 市民自らが作り出し、助け合うそんなまちを行政と共に作り上げたい思いです。	倉金委員
【ふ】あんなく【く】らそう【し】あわせ　プラン ・コロナで社会生活が変化してきています。自粛で隣近所の方や子ども達と顔が見える生活ができました。（特に今回の資料についてではありません）	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
「みんながつながるちがさきの地域福祉プラン」 作る側の愛称になっている気がします。 市民が主役で、福祉に取り組んでいくプランと言うことで 「市民が育てる福祉丸」 は、いかがでしょうか。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
プランの愛称について「ちがさきまるごとスマイル（住まいる）プラン（計画）」 ちがさき市民が笑顔で住めるということを考えてみました。	永田委員
■その他	

「ささえあい」「しあわせ」「助け合い」「いたわり合い」「手と手を取り合い」プランなどのイメージですが、公募した方が、計画の存在などを知ってもらうなど、広がりを見せるのではないかと思います。	松戸委員
老若男女問わず、誰からも違和感無く受け入れてもらえる愛称がいいと思うのですが。考えれば考える程難しいです。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
興味が持てる5年プラン、続く10年プランになるといいのですが	石井委員
最終的に冊子等にまとめられると思いますが、この計画を見る人、必要とする人にとって「見やすく、手に取りやすく、使いやすい」ことが大切かと思います。計画書本体の他に縮刷版、点字版、漫画版、等あらゆる対象者の手に届くような工夫はいくつかできるかと思います。（予算の関係ももちろん重要だと思います。）何か困った時に、手に取るような（ページを開く）ものであることが理想ではあると思います。いろいろな機関、事業者、地域団体がこれほど一生懸命議論し「少しでも良いものを作りたい」と考えて作成するのですから、埋もれることなく活用されるようなものになると嬉しいです。 現在のコロナ禍により、新たな福祉ニーズの出現と共に、新しい福祉のあり方も議論がされることと思います。そうした時勢に敏感に対応した計画にまとめて行けることが必要と考えます。	茅ヶ崎市地域福祉活動計画推進委員
・地域福祉施策についてのアンケートでわからない58.1%満足していない7.9%あまり満足していない12.9%あり、合計すると８割弱になります。 この結果を見ると、情報が正確にわかりやすく伝わっていないことや、知っていても内容に満足されていない現状がはっきりしています。 伝えるにしても、若い世代、高齢者、どのような障害があるかによっても異なると思います。 そのために、専門職や医療なども取り込みながら、内容をわかりやすく伝えることも大事だと思います。	永田委員

閉会

会長署名　　豊田　宗裕

委員署名　　小野田　潤